

6.4 登攀能力の向上

登攀講習では、あえて登る動作そのものの向上を目指しませんでした。なぜならば、各人が通常行っている地質調査にザイルワークを取り入れて安全を確保することに主眼を置いたためです。しかしながら、うまく登ることができれば、より安全に難所を突破できることは明らかです。登る能力を高めるには日常的な練習が必要であり、年1回程度の講習に参加しただけでは上達は望めません。クライミング能力の向上を目指すには、人工壁における練習が適しています。日常的な練習を実現するには、気

軽に練習ができる人工壁を研究所内に設置して環境整備することが望まれます。この対策は婉曲的ですが安全につながります。

謝辞：本稿をまとめるにあたり、産総研 地質情報研究部門の古川竜太氏には、写真を提供していただいたほか、粗稿を読んでいただきました。記してお礼申し上げます。

NAGAMORI Hideaki (2004) : Practice of climbing technique for safety steps on geological survey.

<受付：2004年2月6日>

地質調査総合センター研究組織の再編について

産業技術総合研究所では、来年度からの第2期中期計画に向けて組織の再編を進めています。地質調査総合センターに関連して、この5月1日をもって、新部門として「地質情報研究部門」を設立しました。地質情報研究部門は、これまでの海洋資源環境研究部門と地球科学情報研究部門を母体としており、海域と陸域を統合した新体制を構築することにより、「都市沿岸域」等を新たな重点課題として、地球システムの深い理解に基づき、国土の基本情報である海と陸の地質情報の整備・発信と共に、地質災害軽減と環境保全に資する研究に取り組みます。「地圏資源環境研究部門」はこれまでの体制を継続し、環境と調和した持続可能な社会の構築を目指して、さらなる展開を図ります。

この再編により、地質調査総合センターは、研究コーディネータを代表として、図に示した体制となります。今後、これら組織は強く連携して、社会に役立つ地質情報の創成・発信のために活動します。

